

青森 初秋の風物詩 岩木高原「嶽キミ」Walkと三内丸山遺跡「縄文のお月見」



青森・三内丸山縄文遺跡 お月見コンサートで 2009. 9. 5. 夜



岩木山山麓 岩木高原 秋の風物詩 「嶽キミ」 嶽温泉周辺で 2009. 9. 4.

「青森・三内丸山縄文遺跡でのお月見」の案内を貰う。 毎年 この案内を貰うと秋がやってきたと・・・。
関西に帰ってきて もう随分ご無沙汰の「三内丸山縄文遺跡のお月見」である。

「津軽・岩木山山麓 初秋の風物詩 名産のとうもろこし「嶽キミ」も食べたいし、久しぶりに三内丸山遺跡でお月見をしながら聞く 津軽三味線・笛の名手 山上進さんの世界にも浸りたい。」初秋の津軽の景色が膨らんで行く。

65歳を越えて「飛行機のシルバー特割を使うと青森まで、ほんの1時間ちょっと1万円で行ける。世界遺産登録を目指す「三内丸山縄文遺跡の今」も見たいし、帰りは秋田内陸縦貫鉄道に乗ってマタギの里 森吉山に登って環状列石 伊勢堂岱遺跡のすぐ近く鷹巣北秋田空港から」とすぐに風来坊のルートが出来る。

インターネットで飛行機の空席状況を調べて「空席十分。行ける。最初の岩木山麓の宿のみ予約してあとは風来坊。」と。

9月4日早朝の便で青森に行って、岩木山・岩木高原や三内丸山遺跡を楽しみ、6日早朝に秋田 阿仁の森吉山へ行って 7日午後 北秋田空港から神戸に帰ってきました。

事前の天気予報で「雨」を覚悟して出かけたのですが、



岩木山で土砂降りの雨に出会いましたが、あとは天候にも恵まれ、三内丸山遺跡のお月見はじめ、東北の初秋を満喫して帰りました。

久しぶりの津軽の仲間と眺める縄文の夜空を照らす満月に初秋を迎えた津軽・秋田 山の景色と郷土料理。

こんなに ゆったりの旅もついぞなし。飛行機のシルバー特割を使うと こんなにゆったり気分になれるのか・・・と。

この **初秋の青森・秋田風来坊** 1. 青森 岩木山麓・三内丸山遺跡 Walk 2. 秋田マタキの里 森吉山 Walk の二つに分けて纏めました。

1. 青森 初秋の風物詩 岩木高原「嶽キミ」Walk 2009.9.4. & 9.5.朝

1. 弘前から嶽温泉そして岩木山へ



青森空港から弘前へのバスから眺める岩木山 2009.9.4.

9月4日朝 伊丹から、8時10分の青森行。 がら空きの予想に反して空席がなくなってきて 前日あわてて席を確保しましたが、1席空席があり、前日予約の航空券をキャンセルして、無事シルバー特割のチケットを確保。

大阪は晴れているが、予報では東北はぐずついている。

まあ 今回は久しぶりに三内丸山遺跡のお月見に参加するのが目的なので、天候に合わせて風来坊。

今日は岩木山山麓 嶽温泉に宿も確保してあるし、岩木山や白神の山々をバックに気楽に津軽秋の風物詩 トウモロコシ「嶽キミ」と真っ赤なリンゴが実る畑を眺めながら岩木高原の街道筋が歩こう。でも 天気がよければ、岩木山にも登ろうと。

予定通り、9時45分青森空港着。天候は曇り。

岩木山の姿を気にしながら 弘前行のバスに乗り、弘前からバスを乗り換えて岩木高原へ向かう。約2時間ほどの行程。

青森空港から、丘陵地の林の中を西へ、丘陵地を抜け津軽平野 浪岡町の国道に出ると正面右手 田園地帯の向こうに 頂上部を雲の中に突っ込んだ津軽富士「岩木山」が見える。久しぶりの岩木山との対面 私の好きな山の一つである。

山裾も霞んでいるが、山肌をジグザクに登るスカイラインの終点8合目あたりまでは展望が利きそうである。展望が利きそうであれば、そのまま岩木山へと。

弘前で岩木高原枯木平行のバスに乗換え、まっすぐ岩木山へ向かって西へ。 弘前の街を抜け、岩木川を越えると岩木山山麓の丘陵地。リンゴの林が出迎えてくれるが天気が怪しくなり、だんだん周囲は霧に包まれ、岩木山の姿も見えなくなる。



弘前の駅前周辺



岩木川を渡ると岩木山山麓 リンゴ畑が出迎えてくれる



リンゴの林を抜け、津軽神社のある百沢温泉は霧の中 いつもなら 右手にトウキビの畑と岩木山 左手に白神の山々が眺望

でき、松並木の街道筋のところどころに「嶽キミ」の直売場の旗がひらめくる素晴らしい高原のドライブウエイなのですが、良く見えない。

弘前から約1時間 屋時に見覚えのある嶽温泉の広場でバスを下車。 目の前が今日泊まる宿である。 広場の上に岩木山が見えるのですが、良く見えず。

広場の土産物屋で、山から下りてきた人たちがかじりついている「嶽キミ」に眼が行って私も一本。

「午前中、頂上は360度 雲の間から展望が開けていた。」と聴いて、「まあ 霧でいいから、八合目まで登山バスで登ろう」と帰りの嶽温泉の道を教えてもらう。



岩木高原 嶽温泉広場

2009. 9. 4.

時間が遅い平日なので登山バスは貸切状態。運転手さんにも「頂上まで 天気もつかなあ。。。」と言われながらジグザクの道をどんどん登ってゆく。登るにつれ 霧の向こうに白神の山々と日本海側の海岸線がうっすら見える。

でも 2つほどジグザグを登るともう霧で何も見えなくなった。 霧が薄くなったり、濃くなったり 20分ほどで 8合目駐車場につく。 見慣れた八合目の案内板がみえるが、岩木山の山体は霧に包まれているが、ラッキーなことに雨はふっていない。



自動車専用道路 岩木山スカイライン

2009. 9. 4.

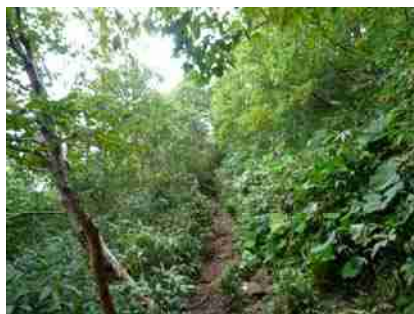


岩木山スカイラインから眺める白神の山々と日本海側の海岸遠望 2009. 9. 4.



岩木山スカイライン終点 岩木山八合目

前に何度かこの八合目から岩木山へ登ったことがあるので 霧に包まれているが、登山道に不安はない。八合目から1時間ほどで頂上である。また、9合目の鳥海火口まではリフトもあり、そこからごつごつした岩の間を登れば頂上である。霧がどんどん降りてきているが、行けるところまで行こうと頂上への登山道へ入る。9合目までは 草木に包まれた林の中の道である。視界はまったく開けず、周囲の山も霧に包まれてしまう。



岩木山スカイライン 岩木山八合目登山口 2009. 9. 4.

霧がだんだん深くなり、ポツポツ雨混じりになり、雨具をつけて登る。

霧が深くなったり、ちょっと薄れたり。 そんな中 登山道の脇に白い花が美しい。



八合目から九合目への登山路で 2009. 9. 4.

雨混じりの登山道を登りきると9合目 鳥海噴火口の縁にでて、右から鳥海山頂上部にあるリフトからの道が合流する。霧雨の中 周囲はまったく何も見えない。 ごつごつした岩山の間を岩木山の頂上へ向かう登山道がうっすら見える。もう、少し登ろうと岩の間の道を登るが、まったく何も見えず、風と雨が強くなる。



岩木山9合目 鳥海火口周辺 2009. 9. 4.

鳥海山リフトとの分岐



雨風が強くなる中 九合目からの登り 2009. 9. 4.

薄腰登って雨が小降りになるのを期待するがダメ。土砂降りの中 頂上から降りてくる人たちも頂上はダメという。

結局 避難小屋の手前まで行って引き返して、8 合目の休憩所に入る。次々と降りてきた人が着替えをする。

天候は回復しそうにないし、バス待つにしても時間がある。嶽温泉への道を雨の中 歩くのもいやなあ・・・と思案。

着替えを済ませたグループのラウンドクルーザーに下まで乗せてもらっていました。



8 合目 駐車場から白神方面の展望 霧雨でうっすらとしか見えず 2009. 9. 4.

ラウンドクルーザーに乗せてもらって ジグザグのスカイラインを下る中霧の中 雨でしたが、スカイラインりのゲートに近づくにつれ、視界が利くようになり、ゲートを抜けると雨もあがったので、下ろしてもらって嶽温泉まで歩く。

本当に山の天気はわからない。振り返って岩木山を眺めるがやっぱり霧の中で姿は見えず。

正面の白神方面が霧から抜け出て姿をあらわし、雨上がりの美しい高原の景色。

弘前・嶽温泉と鱒ヶ沢を結ぶ岩木高原の街道との十字路の所に「嶽きみ」の直売場 そして その後ろに嶽キミの畑が延々とつづいていました。 岩木山秋の素晴らしい景色です。



岩木山スカイライン入口周辺からの雨上がりの西目屋村・白神方面の展望 2009. 9. 4.



岩木山スカイライン入口 周辺 2009. 9. 4.



岩木高原 スカイライン周辺 街道筋の山麓斜面に広がる嶽きみ・トウモロコシ畑 2009. 9. 4.

直売場に入って、また嶽きみを試食。甘くておいしい。

生でも食べられるが、ゆでるのが一番。 さっそく 前にも好評だった嶽きみの宅急便 孫たちとの約束を果たす。

すぐ 横で 爺さん・婆さんが、取れたての嶽キミを剥いていて、「クール宅急便代のほうが高いなあ・・・」というのと取れたてが一番で 味を保存するため、クール宅急便で送る。これがこの嶽キミ農園の自負やという。

この直売場はすぐ西側に広がる枯木平の農園で、この嶽温泉周辺の山麓斜面で栽培されるとうもろこしは寒暖の差がきつく、その岩木高原の気候が甘い嶽キミを育てるという。

なんせ 青森で「岩木山に行ってきた」と言う度に 「嶽キミ」食べてきたか? と尋ねられる青森の秋の風物詩である。



スカイライン角の嶽キミ直売所 2009. 9. 4.

午後3時 まだ早いが、

嶽温泉の宿にチェックインして 温泉に入ってから 岩木高原の街道筋をぶらぶらすることにする。

もう一本もらって、かじりつきながら、嶽温泉に向かう。

山は土砂降りでしたが、嶽キミと霧雨に煙る久しぶりの岩木高原に気分はルンルン。

2. 岩木高原 嶽温泉で 嶽キミ Walk

嶽温泉の広場に戻って すぐ広場の上にある「山のホテル」にチェックイン。

ほかと比べるとちょっと高いのですが、「建物の造りと温泉 そして このホテルの看板マタギ飯と山菜料理」

山のホテルHP には

「 津軽にとって、偉大な父であり優しい母である岩木山。ここには昔、マタギと呼ばれる狩人の、山と自然とともに生きた素朴な暮らしがありました。今なお、岩木山麓に根づくマタギのころ。山のホテルは、そんな郷土の文化を受継ぎ、おもてなしのころを込めてお迎えする津軽のお宿です。」と書かれている。

嶽温泉は岩木山山麓で、すぐ南には白神山地が広がり、この地周辺もかつてのマタギの里である。

今回 秋田県の中央部 マタギの里阿仁の森吉山へも行くのですが、マタギ飯・マタギ料理にも興味深遠で前から一度は泊まってみたいと宿を取りました。



嶽温泉広場 岩木山は雲の中 左手建物が山のホテル



山のホテルの内部 2009. 9. 4.

ホテルのチェックイン カウンターで

今日の夜の料理 マタギ料理のチョイスを聞いてくれる。

「青森は馬刺。熊は好き嫌い。鹿はあっさり」と仲居の女性がニコニコ教えてくれる。「熊は食べたことないし、久しぶりに鹿のルイベも食べたい。」とチョイス。

部屋に入ると

「よく来たねし。今日一日の疲れを温泉に入り、ゆっくりとお過ごしくださいませ。」

本日のお茶うけは嶽キミ」と。

嶽キミの演出に うれしくなる。 まず 風呂に入って それから 嶽キミにする。



山のホテル
内湯と嶽キミのお茶請け 2009. 9. 4.

● 岩木高原の街道筋を百沢まで Walk



嶽温泉とひとつ手前 岩木神社のある百沢温泉の間街道筋 2009. 9. 4.

嶽温泉とひとつ手前 岩木神社のある百沢温泉の間街道筋は眼下に西目屋村・白神の山々を眺め、反対側にはトウモロコシ畑やリンゴ畑の向こうに岩木山がそびえる毛高原の景色が満喫できる場所。

嶽温泉で 一雨きたのも幸いあがったし、嶽キミの畑の向こうに岩木山が均整のとれた姿が見られる取っておきの場所まで、嶽キミの直売場を巡りながら 夕食前の Walk。

リンゴ畑にも行きたかったのですが、百沢からだけ温泉にかけてが、嶽キミの畑 百沢より下がリンゴ畑になっていて、そこまで行けず。 帰りに再度バスから・・・・・・。



百沢-嶽温泉の間の街道筋に広がる嶽キミの畑と岩木山 2009. 9. 4.



9月5日 早朝 嶽キミの朝採り



津軽 岩木高原の風物詩 嶽キミ

● 嶽温泉 山のホテルの夕食 マタギ料理（マタギ飯）



マタギ飯



竹の子紅蓮押し
みずと身欠鯉の酢味噌がけ
樺温地ずんだ和



鹿肉ルイベ



嶽キミ茶碗蒸し



舞茸土瓶蒸し



岩木山豚 きのご鍋



油物・タラバなど



熊肉の串焼き



山ぶどう酒と香の物

興味深深の岩木山麓 山のホテルのマタギ料理。

山菜と山の幸・山菜が中心の料理に岩木山豚のきのこ鍋。嶽キミが茶碗蒸しになっていたのにもビックリ。

熊肉の串焼きはやつぱり硬くておいしいとはいえませんでした。初体験に満足。

またぎ飯は舞茸・キジ肉・山菜の混ぜご飯 おいしかったです。

地酒「白神」をいただきながら 満足の完食でした。

朝食もほんと こってました。 朝7時30分からというのを無理やり頼んで、7時からにしてもらって。

十三湖の蜆がついていて こっちもラッキーでした。



9月5日朝 朝食

● 9月5日 早朝 朝焼けの岩木山 と 岩木山登山道 ぶなの林 Walk

5日は雨を覚悟していましたが、朝5時に起きて、朝風呂。晴天を確認して散歩に出る。
10時30分からの三内丸山遺跡の新しい発掘の現地説明会にどうしても出たいので、7時40分の一番のバスで山を降りて、弘前から青森へ行かねばならない。何とか 岩木山の全体の姿が診られないか・・・と。

「街道を横切って まっすぐ南へ下った池のある公園が嶽温泉随一の岩木山ビューポイント」と夜フロントで教えてもらって、まだ 少しくらいなのですが、ホテルを抜け出しました。朝霧が漂う中、刻々と変化する朝焼けの素晴らしい岩木山の姿を眺めることが出来ました。また、朝食までまだちょっと時間が取れたので、30分ほどホテルの横から岩木山へ伸びる岩木山登山道を少し登って、ブナ林の散歩も楽しみました。



白神の山に月が沈む

並木道 朝霧の中をまっすぐ南へ

振り返る岩木山はまだ朝霧の中

街道筋を横切り、嶽の集落を抜け、湯段温泉への並木道を南へ 振り返ると岩木山は朝霧の中 頂上部に雲が巻いている



刻々と変化する岩木山 2009. 9. 5.

嶽温泉 運動公園周辺で



朝霧の嶽温泉 運動公園周辺で 2009. 9. 5.

嶽温泉運動公園からホテル前に帰ってくると ホテルの上にくっきりと岩木山。
もう少し時間があるので、ホテルの横の赤い鳥居を潜って、岩木山への登山道をぶなの森へ。



嶽温泉からの岩木山登山口



山のホテルの上に岩木山が見える



嶽温泉からの登山道のブナ林 2009. 9. 5. 朝

● 嶽温泉から岩木高原を弘前へ下るバスの車窓より



嶽温泉から岩木高原を弘前へ下るバスの車窓より〔1〕 嶽キミの畑の向こうに岩木山がくっきり



嶽温泉から岩木高原を弘前へ下るバスの車窓より〔2〕 高原の南側 西目屋・白神の山並み



嶽温泉から岩木高原を弘前へ下るバスの車窓より〔3〕 百沢より下のリンゴ畑

初秋の青森・秋田風来坊【1】

青森 初秋の風物詩 岩木高原「嶽キミ」Walk と三内丸山遺跡「縄文のお月見」

2. 三内丸山縄文遺跡「縄文のお月見」 2009.9.5.



今日は一日ぎっしりのスケジュール。

三内丸山縄文遺跡に行って、世界遺産を目指す三内丸山縄文遺跡の今を見て、夕方からは三内丸山遺跡でのお月見。

久しぶりに津軽三味線・笛の名手山上進さんの津軽ミュージックを聞くのが一番の楽しみ。また、古い縄文仲間に会うのも楽しみであるが、おぼえているだろうか・・・。

9月5日朝 岩木山麓から青森に着いたのが、10時前。

来年の新幹線開業に向けた道路整備などの工事の真っ最中であるが、青森駅へ入る少し手前に新青森駅が出来るので、青森駅周辺の市街地はひっそりしている。

弘前から青森駅へ入る少し手前で、来年開業の新青森駅ならびに北海道へ渡る新幹線工事現場周辺をクロスして通り抜けてきた。新幹線は現在の青森駅へは入らず、少し西側の三内丸山遺跡のすぐ横を南北につききって、新青森を経て北海道へ向かう。

(今の青森駅を通すには スイッチバックになってしまうので、断念されたようだ。)



10時30分からの本年度の三内丸山遺跡の本年度発掘調査されたに西盛土現地説明会に参加するため、急いでホテルに荷物をあずけて、三内丸山遺跡へ。現地説明会に出て、その後 ゆっくりと遺跡の中を歩いて 随分変わった遺跡の今を眺めようと。

三内丸山遺跡 正面入口 縄文時遊館前でタクシーを降りて、急いで時遊館内を通り抜けて遺跡の中へ。



三内丸山遺跡 正面入口 縄文時遊館前 2009. 9. 5.

遺跡はこの後ろである

時遊館の裏手から丘を上って、遺跡への道を急ぐ。
 時遊館が出来前とは随分印象が違う。
 道を急いで走ると向こうに懐かしい 6 本柱と大型住居が
 見えてく、私のイメージの中にある三内丸山遺跡の景色
 が見えてきて、ほっとする。

広い遺跡の西端で、幾つものテントが建てられ、今日の
 イベントの準備が進められている。

この西端の丘の上に収蔵庫が建っていて、その前が現
 地説明会の集合場所。

急いで今日の受付を済ませて、現地説明会の集合を待つ。



西の端 収蔵庫前より 三内丸山遺跡 全景 2009. 9. 5.



東の端より 三内丸山遺跡 全景 中央奥が収蔵庫 2009. 9. 5.
 収蔵庫の後ろに白い斜張橋が見えるのが 北海道に延びる東北新幹線である



本年度発掘調査された西盛土現地説明会のスタート 収蔵庫のすぐ横の西盛土へ上ってゆく

● 三内丸山縄文遺跡の概要

三内丸山遺跡公式 HP 三内丸山遺跡とは より

<http://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/about/index.html>



■ 資料「三内丸山遺跡 ―縄文時代の大規模集落―」より

<http://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/about/image/sannaimaruyama.pdf>



時遊館が作られる前の三内丸山遺跡 2000. 9. 資料採取

<http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/jstlaa07.pdf> より



縄文時代の扉を開く

縄文時代は今から約1万2～3千年前に始まり、約2千3百年前に終わりました。その約1万年間を「縄文時代」、その文化を「縄文文化」と呼んでいます。縄文時代には土器の製作と矢の使用が始まり、ムラが作り始められました。縄文時代より前は「旧石器時代」、縄文時代の後は「弥生時代」になります。

三内丸山遺跡から見てきたもの



■ 集落の構造 ■

縄文人は土地の使い分けをしていました。特に墓と普段生活している住居は厳密に分けられています。他に家が密集して作られる所、まつりの場所、物をしまふ・貯蔵する場所、ゴミ捨て場などを作っていました。



■ 墓 ■

TOMB

大人の墓と子供の墓は区別されていました。また、道路に沿うように墓を配置するなど、墓を作るにはいろいろなきまり

があったようです。

■ 大人の墓 ■



集落の東側から大規模な大人の墓地が見つかった。大人はせくなると地面に楕円形の穴を掘って埋葬した。大きさは1～2.5メートルで、手足を伸ばして埋葬されたものと考えられます。中からヒスイのペンダントややじりがまとまって出土した墓もあります。

■ 墓の配置 ■

大人の墓は南北を向くように道路をはさんで東西方向2列に、それぞれ足を向けて、向かい合うように配置されていました。

■ 墓と道路 ■

2列に並んだ墓の間には道路が通っていました。縄文時代の道路は地面を掘り下げて、浅い溝のようになっていました。幅約12メートル、長さが420メートル以上海の方へ延び、その両側に大人の墓が並んでいました。

■ 環状配石墓 ■

集落の西側から、周りを石で囲んだ、この集落の有力者のものと考えられる墓が見つかりました。直径が約4メートル程で、土を盛っているものもありました。これらは道路にそって斜面に並んでいます。



■ 子どもの墓 ■



子どもは亡くなると、普段使っている土器の中に遺体を入れ、埋葬します。土器の大きさから考えて、おそらくは1才前後の子どものと考えられます。中からいい石が見つかる場合が多いです。これまでに800基以上の子どもの墓が見つかりました。

集落のようす VILLAGE

遺跡の規模は、全体で約38ヘクタールあります。これは東京ドーム約7個分くらいになります。発掘調査によって集

落の構造が少しずつ明らかになってきました。

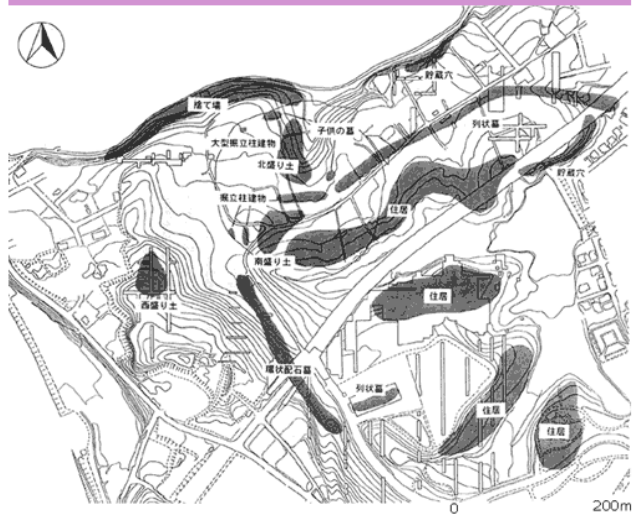
■ 集落の立地 ■

遺跡は八甲田山から続く緩やかな丘陵の先端にあります。当時は豊かな落葉広葉樹の森が広がっており、クリ、クルミ、山菜などが豊富でした。

また、近くの陸奥湾は、年間平均の波の高さが約30センチメートルと穏やかな内湾で、魚が豊富でした。集落の北側を沖館川が流れており、海にそそぐ河口近くの小高い丘の上に縄文の人々は村を作っていました。

この場所は食料を得る上では好都合でした。海と森の恵みを組み合わせることによって、一年間にこの場所で安定した生活をすることができました。

■ 縄文時代中期中頃の三内丸山集落の様子 ■



技術 TECHNIQUE

■ 漆製品 ■



出土した漆器

三内丸山遺跡の低地から赤漆塗りの木製皿などがみつかるほか、赤色顔料なども見つかり漆製品が製作されていたと考えられます。縄文時代の前期中頃(約5,500年前)のもので、漆は一本の木からの樹液の採取量が少なく、精製に専門的な技術が必要です。三内丸山遺跡には、そうした高い技術を持つ人がいたことがわかります。



復元した漆器

■ 縄文ボジェット ■

イグサ科の植物を利用して編んだ、小さな袋が出土しました。網代編みで作られています。完全な形のものは日本でこれだけです。



縄文ボジェットの中に入っていたクルミ

食

FOOD

縄文人の食生活はゴミ捨て場を調べる
ことによって知ることができずし、骨を
分析することによって何を食べたのかわ
かる場合があります。それによると、縄文人の食料の大部分は木の実などの植物性の食料
でした。

■ 食べ物 ■



これまでに、たくさんのクリやクルミが出土しており、クリは特に重要だったようです。また、イモ類や山菜も利用されたと考えられるほか、マメ類やエゴマ・ヒョウタンなども栽培されていたことがわかっています。

動物の骨では、普通の縄文遺跡ではシカやイノシシが多いのですが、三内丸山遺跡ではムササビやノウサギなどの小動物が多いことがわかっています。魚類ではマダイ・ブリ・サバ・ヒラメ・ニシン・サメ類などが多く、フグも食べられていました。

また、当時の調理方法は「焼く」よりも「煮る」が多かったといわれています。



マメの実

■ お酒？ ■



ニワトコの実

エゾニワトコを中心に、サルナシ・クワ・キイチゴなどを発酵させた果実酒が作られていたようです。これらの種子は、まとまって多量に出土し、発酵したものに集まるショウジョウバエの仲間のサナギなどと一緒に出土していることがこれを裏付けています。

交流・交易

TRADE

遠方からヒスイ、黒曜石、琥珀、アスファルトなどが舟を使って運ばれてきました。集落が大きくなる約5000年前から、他地域と活発に交流・交易がさらに行われるようになりました。

■ ヒスイ ■



ヒスイの大珠(ないしゆ)

約600キロメートル離れた新潟県糸魚川周辺から運ばれました。原石、加工途中の未完成品、完成品の珠などが見つかっています。非常に硬い石で、その加工は熟練した技術と知識が必要でした。

■ 黒曜石 ■

ガラスとよく似た、鋭く割れる石です。北海道十勝や白滝、秋田県男鹿、山形県月山、新潟県佐渡、長野県霧ヶ峰など、日本海を中心として地域の黒曜石が運ばれてきました。



出土した黒曜石

三内丸山遺跡公式 HP <http://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/about/index.html> より

2. 1. 2009 年度発掘調査 西盛土 現地見学会



2009 年発掘調査地

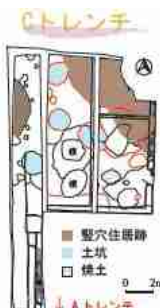
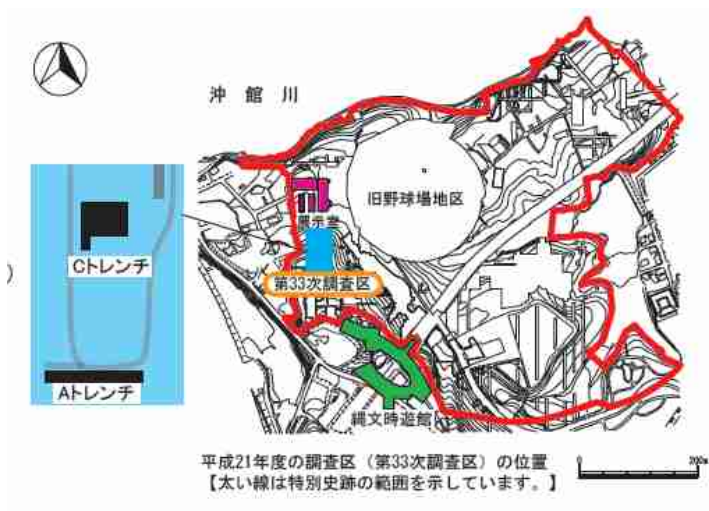
第 33 次調査区西盛土現地調査現地説明資料 より

http://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/excavation/image/20090905_gensetsu.pdf

なんとか本年度の発掘調査区の現地見学会に間に合った。調査区は収蔵庫のすぐ南側 樹木が生茂る小高い丘 西の盛土。

「西盛土の大きさは東西60m、南北100m以上で最も厚い部分は丘陵頂部付近で約1.8m。盛土が作られ始めたのは縄文時代前期末葉（今から約5,000 年前）頃で最上部の中期末葉今から約4,000 年前）まで約1,000 年間にわたる土の堆積。

今年度の調査では、盛土の外縁部に竪穴住居跡（家）が、内部には埋設土器（子どもの墓）が重複して見つかり、それぞれがつくられた年代と、盛土の土層に含まれている遺物の内容等から西盛土の成り立ちや広がりについて調査
 -現地説明会資料より- 」と概要の説明を受けて、西盛土発掘調査地 収蔵庫に盛土の南端に位置するCトレンチに上っていった。



西盛土の南端に位置する Cトレンチ 竪穴住居と土坑跡



C トレンチ傍に西盛土から出土した遺物 糸魚川産ヒスイの碎片も出土していました

三内丸山遺跡では数多くの糸魚川産ヒスイの加工品を見たことがありますが、碎片が見た記憶なし。

三内丸山遺跡にも原石が持ち込まれ、加工されたのだろうか？

一旦盛土を出て収蔵庫の横の道に出て、再度 西盛土のA トレンチへ登る。

こちらは樹木に包まれた盛土の頂上部に近い上部に近い傾斜地である。



西盛土の頂上部に近いA トレンチ



西盛土 A トレンチ 上部 無数の土器片・石皿・石棒などが見える

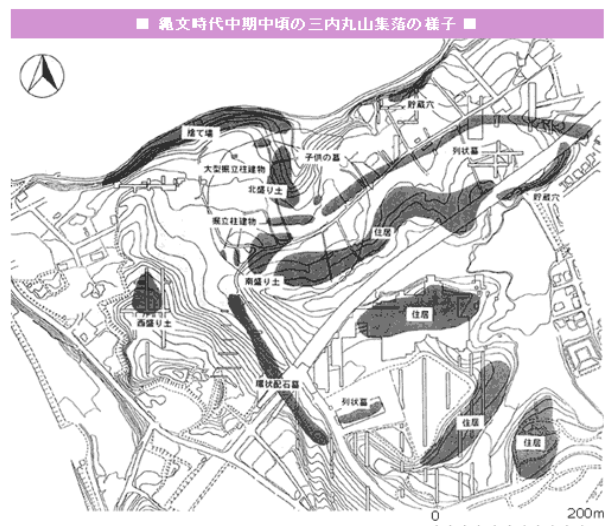


埋設土器〔子供の墓〕



土器埋設炉

2.2. 三内丸山遺跡 walk



北盛土から 6 本柱と大型竪穴住居を見る

2009. 9. 5.



北の谷 縄文前期の遺物が出土した北の谷



東側の盛り土周辺より大人の墓列が続く南の大道より遺跡の中心部 掘立柱建物群 左手に西の竪穴住居群



東側の盛り土周辺より 左手に西の竪穴住居群 右掘立柱建物群



ストーンサークルの原型 環状配石墓が並ぶ 墓の道



三内丸山遺跡の南側の丘に広い草地在整備され、遺跡全体をゆったり見渡せるように整備され、
三内丸山遺跡全体が縄文の森の中に子たれるようになっていました。 2009. 9. 5

縄文時遊館で 遅い昼を済まして、遺跡に戻って、大型竪穴住居の中で開かれている縄文の仮面作りワークショップをのぞいて、3時半から縄文時遊館シアターでの縄文宵待ちフォーラムへ。
以前のお月見でいっしょに集ったことのある先生や発信の会の
発の会のメンバーに出会えて懐かしい。三内丸山遺跡の岡田先生・小山先生 青森FさんSさん 東京からのKさんほか 大阪からAさんも……。覚えてもらっていたのがうれしい。



宵待ちフォーラム 縄文とケルトの渦巻



復元大型竪穴住居内で縄文の仮面作りワークショップ

宵待ちホーラムでは 縄文とケルトの渦巻文様についての話。 イギリスのストーンサークルについて 「墓との見解が有力になってきたことやストーンサークルのすぐ近くにウッドサークルがあり、これらを結ぶ祭りが行われていたらしいこと」などの資料を読んでいた時だったので、 縄文とケルトの渦巻文様の有する世界観の共通性の話には興味深々でした。

ホーラムが終わった時には、外は夕暮れ。西に日が傾き、空は夕焼け。

6 本柱の向こうに太陽が沈んでゆく姿が、実に気持ちがいい。

大型竪穴住居横の中央の丘に「お月見」の舞台もしつらえられ、その前に座って、頼んでおいた縄文の弁当を食べながらお月見の開始を持つ。



9 月 5 日 お月見の日 三内丸山遺跡の夕日



9 月 5 日 夕 縄文弁当を食べながら お月見コンサート 月の出を待つ

2.3. 三内丸山遺跡 縄文のお月見



お月見コンサートたけなわの夜空に満月の月が現れた



山上進さんの演奏ではしめたお月見コンサート

夕闇せまる午後6時30分 かがり火に火が入り、山上進さんが演奏する尺八「縄文」の澄んだ調べが遺跡に吹き渡り、コンサートが始まった。

久しぶりに聴く山上さんの音色に吸い込まれてゆく。ぼんやりと浮かび上がる掘立柱建物・大型住居・6本柱そして遠く暮れ行く八甲田の山々に音色が美引き渡って気持ちがいい。一番楽しみにしていたひとときです。

次々と音楽家・ミュージシャンの演奏が続き、真っ暗な夜空になって、再度 山上進さんが登場し、横笛と津軽三味線の演奏が始まると真っ暗な夜空に満月が高く昇った。

月に向かって響く津軽三味線即興曲「八甲田」と横笛「津軽おやま詣り」の演奏にみんな酔う。



次々と音楽家・ミュージシャンが登場 お月見コンサート 2009.9.5. 夜



最後は「ねぶた」の演奏・リズムにみんなで酔って終了となりました。



お月見コンサートの後、お月さんを眺めながら 大型竪穴住居で出演者・参加者の懇親会で盛り上がる



本当に久しぶりの三内丸山遺跡 そして、お月見コンサート。
世界登録を目指す三内丸山遺跡の今を見ることが出来て 遺跡で聞く津軽・縄文のコンサート。来てよかった。また 来年もと・・・。
でも 遺跡の整備が年々整備され、時遊館や収蔵庫展示室など遺跡案内が整備され、かつてのあの厚い思いが薄らいで、ちょっと距離感が出てきたなあ・・・と感じました。説明よりも あの学者・市民・訪問者みんなが主人公のあの熱気が・・・と。
でも 遺跡の整備が年々整備され、時遊館や収蔵庫展示室など遺跡案内が整備され、かつてのあの厚い思いが薄らいで、

ちょっと距離感が出てきたなあ・・・と感じました。

説明よりもあの学者・市民・訪問者みんなが主人公のあの熱気が・・・・・・と。

六本柱はどんな建物だったのだろうか

三内丸山の集落を貫くこの広い道はなぜ必要だったのだろうか・・・・・・

環状配石墓と墓の道 今にも声が聞こえてきそうな土偶 ここでどんな祭りが行われたのだろうか・・・

栗・どんぐりの栽培と酒造りとは・・・

翡翠に黒曜石 そして漆 この集落多くの人が交易をしていたというのが・・・

などなど

自分でも頭をひねりながら、身をのりだして聞いた 三内丸山縄文人の生活

発掘された遺物の事実の説明よりも 多くの人が「縄文の暮らしと今の知恵」を語っていた。

それが 三内丸山の熱気だったような気がしていますが、遺跡の菌靴が進み、遺跡が解明されるにつれ、遺跡の中で、そんな生の話が聞ける機会もなくなり、また 遺跡も埋め戻され、迫力がない。

無言のジオラマが展示室にあるのみ。

かつて、学者さんが一般の人たちに混じって ジオラマをじっと見ながら、墓の道を考えているといわれた姿が強く印象に残っています。

あの展示室のジオラマが外の遺跡の丘にもちだされ、縄文の世界が広がる遺跡と照らし合わせながら、みんなが抱く疑問・三内の素晴らしさがもっと語り合えたら・・・と。そして、みんなが自分の描いた三内丸山遺跡を語って 三内丸山遺跡と自分を語っていた。 そんな身近な三内丸山遺跡が世界遺産になれば・・・と。

虫のいい話なのでしょうか そんな夢を描きつつ、6本柱の上に輝く月をながめつつ、三内丸山遺跡を後にしました。

2009.9.5. 夜 三内丸山遺跡 お月見の会に参加して

Mutsu Nakanishi